

学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	上二の子どもはやり通す ○やり通す子…よく学ぶ子(今年度重点)、思いやりのある子、よく働く子 ○やり通す子…よく遊ぶ子、よく運動する子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○安全・安心な学校、保護者・地域から信頼される学校 ○明るく元気に学び合える児童 ○教職員が協力し合い、互いに磨き合う教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	＜成果＞「確かな学力の向上」では、既習事項の確実な定着を行うことによって意識的な取組が少しずつ成果へと結びつき学力向上がみられる。「地域資源を活かした教育」では、「心のふるさとづくり」として総合的な学習の時間及び生活科と関連付けて、教育課題実践推進校として研究は発表会を行った。その結果、地域への愛着形成を育むことができた。 ＜課題＞学習規律の徹底(話の聞き方、姿勢)、自ら進んで挨拶や返事をする、体力向上に向けた運動量の確保、基礎学力の向上等		

教育委員会 重点課題	<取組項目>・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		年度末に向けた 改善案		
				取組	成果	成果と課題	評価		コメント	
学力の向上	<学力的向上> ・誰一人取り残さないための学力的向上アクションプランに基づいた授業改善の推進、学習の基盤となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実	①放課後補習教室の効果的な活用 ②上・二小学習の約束を各学級・専科で徹底して実施 ③江戸川っ子スタディワークの効果検証	・東京ページドリル診断テストでの学校全体の平均正答率を70%以上とする ・学習規律アンケートにおける肯定的回答80%以上 ・各学期に行う江戸川っ子スタディワーク後の実施率9割以上	A	B	・放課後補習教室では、学期ごとに児童の理解度を確認してメンバーを調整し、より効果的な活用ができる ・児童の学習規律について意識的に取り組んでいくと教員が90%以上いた ・継続的に実践することで成果がある ・江戸川っ子スタディワークについては、積極的な取り組みが児童を効果的に導き、意欲的な学習への定着に向上した取組ができた	B	・学習効果を上げるための取組は評価できるが、学習習慣が身に付いていない児童も多い等指摘されているので、施策が必要である ・学校だけでなく、各家庭の復習の継続等、一体となる取組があるように ・学力的向上の取組を継続して取り組んでほしい	・学習習慣が身に付けられるように家庭と連携して取り組むとともに、学校から積極的に情報発信をしていく ・江戸川区算数授業カギスターを活用し、「算数の授業が楽しい、わかる」といった授業を全教員が実施する ・四則計算の基礎基本の徹底等、放課後補習教室の指導者と相談しながら進めていく	
	<読書力の更なる充実> ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実 ・読書科と総合的な学習の時間・生活科等との連携強化 ・学校図書館の整備、学校図書館を使った授業の充実	①江戸川区の読書科指導の工夫・改善に向けた研修会に参加 ②学校図書利用の充実(低・高・3月、高・2月以上の活用)及び実施した際の選考への記入 ③学校司書を活用した読書活動を学期3回以上100%実施(学校図書櫃での読み聞かせや学習支援等) ④読書科の授業で探求的な学習を学期1回以上実施	・江戸川区の読書科指導の工夫・改善に向けた研修会の校内伝達研修を年2回以上実施 ・学校図書利用率を100%とする ・学校司書を活用した読書活動を学期3回以上100%実施 ・児童アンケートでの「読書科を通して探求的な学習が楽しめた。」に対する肯定的回答を70%以上とする	A	B	・読書科の研修を年3回受け、伝達研修した ・学校司書を活用した読書活動や保護者による朝読書が月1回以上実施できた ・児童が読書難いなどないよう、学校図書館を積極的に活用し、読書科を見学した ・読書科と総合的な学習の時間等を連動させて探究的な学習に意欲的な児童を育てることができた	B	・朝の読み聞かせは、保護者や地域の方々の協力が見られてよい取組である ・一人一台端末があり、その活用が積極的に進められている中で、読書科を進めるのは大変でない ・授業とジョイントした利用、朗読大会を行ってもよい	・時間を確保して読み聞かせや読書活動を充実させる ・小岩図書館の司書との連携については、読書科、総合的な学習の時間や生活科などの探究的な学習等においても積極的に活用していく ・本年度児童の学習実施、読書科の指導内容に準じた図書を選定し、教員の読書の充実を図っていく	
	<新しい教育の充実と推進> ・一人一台端末を活用した個別最適な学びの実現	①ICT活用に向けた教職員研修会の実施 ②教科の予習復習、調べ学習でのリサーチの積極的な活用	①ICT活用に向けた教職員研修会の実施、ICTに関する児童の予習復習での「ICTを活用した授業は分りやすいですか。」に対する肯定的回答80%以上	B	B	・ICT活用に向けた教職員研修会を計画的に実施したが、指導法について必要に応じて支援員が指示した点、 ・リサーチの活用を今後積極的にしていく	B	・ICTを活用した授業をさらに進めてほしい ・一人一台端末での学習のみに制限する ・保護者の有識者の活用があるように	・一人一台端末を活用して対話的な学び、学びが広がる、わかりやすい授業が工夫されている ・家庭や上・SNS研修を徹底していく	
	体力の向上	<運動意欲や基礎体力の向上> ・健康、体力の向上に向けた外遊びの励行及び運動遊び ・主体的な活動を促すため、休み時間を活用した運動遊びの充実	①体育実技研修会を実施 ②主体的な活動を促すため、休み時間を活用した運動遊びの充実	①体育実技研修会を年3回以上実施する ・「体を動かすのが楽しい」と感じる児童の肯定的な回答85%以上	A	A	・体育実技研修会はもとより、行事に合わせ学校長自ら、具体的指導を全校朝会等でも児童向けに実施し、各教員とも共有でき学校全体で指導ができる ・休み時間に体を動かす時間を十分に確保するようにしていく	A	・体力向上に向けた取組を継続してほしい ・体力の向上は学力的向上につながるもので、力を入れている ・休み時間や体育の授業等で楽しそうに体を動かしている姿が見られる ・校庭を有効的に活用方法を考えてよい	・体を動かすのが楽しいと感じることのできる授業改善を引き続き行っていく ・休中みの30分確保して、遊びや活動の時間を十分に確保して体力を向上させる
<わくわくタイムの充実> ・体力テスト結果における分析、活用の充実		①年間35回以上のわくわくタイムの実施 ②体力テスト結果での課題のある動き(投げた動き、持久力等)の指導の工夫	・体力テストにおける結果を全組目において東京都の平均以上にすること	A	B	・体力テストの結果から、課題のある動きを指導した ・わくわくタイムを楽しみにしている児童が増えた ・運動会を通して体力向上に効果があった	B	・全学年が体力テストにおいて平均以上になるように指導を継続してほしい ・高学年のモチベーション維持を ・「わくわくタイム」を継続してほしい	・わくわくタイム、体育の授業等の始まるまでの間にできる短時間で実行する運動を習慣化させる ・わくわくタイムの取組を充実させて体力も向上させていく	
共生社会の実現 に向けた教育の推進		<特別支援教育の推進> ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジメントの活用促進 ・副障交流、交流及び共同学習の実施、充実	①上・二小ユニバーサルデザインのポイントに基づいた各学期1回以上の定期的な環境改善の実施 ②体育実技研修会を実施 ③お祭り等の交流を通して各学級間との連携を図る	・特別支援教育の視点を取り入れた授業自己チェックリストを90%以上が良好状態にある ・巡回指導員、心理士等の助言を学級経営に生かしているが割合として、 ・月1回の便りや校内に掲示する	A	B	・巡回指導員と巡回心理士等による学級や授業観察を70%の教員が実施をし、具体的な指導を受け受け学級経営に生かすことができる ・スクールカウンセラー等からの便りや月一回配布した、副障交流の便りや校内に掲示していき	B	・巡回指導員と巡回心理士等による学級や授業観察を70%の教員が実施し、具体的な指導を受け受け学級経営に生かすことができる ・スクールカウンセラー等からの便りや月一回配布した、副障交流の便りや校内に掲示していき	・巡回指導員と巡回心理士等による学級や授業観察を70%の教員が実施し、具体的な指導を受け受け学級経営に生かすことができる ・巡回指導員と巡回心理士等による学級や授業観察を70%の教員が実施し、具体的な指導を受け受け学級経営に生かすことができる
		<オリンピックリガーを生かした教育> ・オリンピック精神の育成 ・日本伝統文化の理解	①学年を超えた運動遊び・集団遊びの実施 ②日本伝統文化に親しみ、理解を深める	・縦わり班遊びを年間6回実施する ・関係する学校研修率85%以上	A	A	・学年を超えた運動遊び・集団遊びをして、縦割り遊びを計画的に実施し、学習発表会や狂言教室で日本文化に触れ合うことができた	A	・日本の伝統文化等、わかりやすい取組項目にする ・継続して取り組んでほしい	・学年を超えた運動遊び・集団遊びを通して、学年末には2年生から5年生に引き継ぎを行うように ・日本の伝統文化に触れ合う機会を作る
子どもたちの健全育成	<子どもたちの健全育成に向けた取組> ・不登校や家庭への連携 ・教育相談の強化 ・hysper-Qの活用	①不登校や家庭に課題のある児童に対し、SSWやSCとの連携を図るとともに、学年を超えた運動遊び・集団遊びの実施 ②スクールカウンセラー等との教育相談を実施する	・月1回以上SSWとの連絡会を開催し、学校での児童の生活などをも、情報交換できている ・教職員アンケートで、90%以上が「情報を共有し、組織的に対応できた」と回答する	B	B	・不登校傾向や家庭に課題のある児童に月1回定期的に、生活士などをも、情報交換できている ・SSWと連携はほか、家庭や児童への支援につながる機会ができた	B	・不登校や家庭に課題のある児童に月1回定期的に、生活士などをも、情報交換できている ・今後とも家庭との連携は重要である。改善に向けた努力を継続してほしい ・機会があれば学校教員とのカンパニスを希望する	・来年度にネットモラル教育を前期(4月)、後期(10月)で回す予定し、児童の意識を高める ・巡回指導員、巡回心理士等の助言を受けるとともに、SCやSSWとの連携を図りながら、家庭や児童への支援をする	
	<いじめの未然防止に向けた取組> ・いじめの未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実	①各学期1回、いじめアンケートを実施し、児童指導員及び防止に活用し、未然防止や早期発見に役立てる	・ふれあい時間での「思いやり」や「友情」について年3回定期的なだけでなく、臨時でも、未然防止や早期発見に役立てる情報を共有できた	A	A	・児童指導員及び防止にむかっ生活指導委員会など定期的にだけでなく、臨時でも、未然防止や早期発見に役立てる情報を共有できた	A	・いじめは、あることを前提に取組を継続してほしい ・子どもたちが未来に向かって健やかに育っていくこと	・各学校で行っているいじめ防止の授業について、学校全体で共有する機会を設ける	
地域に広く開かれた学校(園)の実現	<自校の取組の積極的な発信> ・学校ホームページの充実 ・学校公開の実施・充実	①学校ホームページ・tutorで情報発信をすることによって学校での様子や情報を周知する ②学校公開や学習発表会で児童の成長の様子を公開する	・毎日ホームページを更新し、月1回以上学校だよりを学年だりて伝える ・年間5日の学校公開や運動会・学習発表会を実施する	A	A	・学校ホームページ・tutorで情報発信をすることによって学校での様子や変遷の情報を周知できた ・学校公開では、公開の内容や実施方法工夫することによって多くの保護者の参観があり、平素の学校や児童の様子を見ていただくことができた	A	・開かれた学校を目指してほしい ・地域の学校のホームページを見てほしい ・ホームページの更新を楽しみにしている ・学校公開等で積極的に情報発信をしている	・来年度は運動会や二芸術祭を計画し、年4回の学校公開を予定して地域に開かれた学校となるように実施していく ・PTAのホームページの充実していく	
	<学校関係者評価の充実> ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	①学校評議員会を年3回実施し、学校の教育活動の情報発信及び地域の方々の思いや考えの共有化を図る	・学校関係者評価における中間評価及び最終評価時における肯定的回答が90%以上とする	A	B	・学校の教育活動の情報発信及び地域の方々と定期的に実施できていた ・運動会や学習発表会、学校公開等の行事で学校評議員、地域の方々に参観していただく機会が増え、よりよい教育活動につながっている	A	・コロナ禍以前の頃のような地域とかかわりをもできる範囲で行っている ・学校に足を運ぶ機会が増えてほしい ・学校評議員会では、十分な情報交換ができていない ・教員とのかかわりを密にしていきたい	・日々の情報共有により様々な事案への早期対応ができていたので、今後も継続していく	
特色ある教育の展開	<関係機関との関係強化> ・学校応援団・すくすくスクールとの連携の充実	①定期的なPTA役員会及び全体会の実施及び情報共有の場の設置 ②PTA・すくすくスクールとの情報共有の場での設置を90%以上とする	・PTAからの情報発信を毎回tutorで配信ができる ・PTA・すくすくスクールとの情報共有を密にし、共に取り組む取組を推進していく	A	A	・PTAからの情報発信を毎回tutorで配信ができる ・PTA・すくすくスクールとの情報共有を密にし、共に取り組む取組を推進していく	A	・地域と連携を強化し、より社会教育に力を入れること ・地域で子供を育てる意識が高まるように	・今後ともPTAやすくすくスクールとの連携を図りながら、児童への指導をしていく	
	<地域資源や人材を生かした学習> ・地域資源を活用して自ら課題を見だし、課題解決に向けての学びや通ずると感じる児童の育成	①地域の資源を活用した授業づくりと人材活用マップの作成 ②校内研究で年間4回の授業・協議会を開	・校内研究で年間4回の授業・協議会を開 ・各学年で地域資源を活用した授業を2回以上行う	A	B	・地域資源を活用した授業づくりと人材活用マップの作成 ・校内研究で年間4回の授業・協議会を開 ・各学年で地域資源を活用した授業を2回以上行う	B	・地域資源を活用した授業づくりと人材活用マップの作成 ・校内研究で年間4回の授業・協議会を開 ・各学年で地域資源を活用した授業を2回以上行う	・昨年度、今年度の研究の成果をもとに、地域資源を活用して授業づくりや児童の地域への愛着形成の強化を図っていく	
特色ある教育の展開	<学校における働き方改革プラン> ・実効性のある働き方改革の実施	①業務分掌精査及び作業効率を上げるための仕事の見直しによるライフワークバランスの向上	・月1回の定時活動日の設定、超過勤務時間制限145時間以内	A	B	・業務分掌の精査と見直しによる働き方改革についての管理職からの呼びかけ、年度当初より実施することによって、意欲的に取り組む取組を推進していく	A	・超過勤務時間が大幅に短縮されたことは評価できる ・今後とも仕事の効率化を図る努力をしてほしい ・インクルーシブに十分気を付けて従事していただきたい	・定時活動日を設け、月1回以上17時まで100%活動できるようにする。そのために、計画的な仕事の進め方や、優先順位の付け方などを共有する	